



『解夏』

さだまさし

さだまさしは昭和二十七年、長崎市生まれのシンガーソングライターである。昭和四十九年、「精霊流し」が大ヒットし、数々の名曲を世に出している。

平成十三年、自伝的処女小説『精霊流し』を発表し、映画化、テレビドラマ化された。

続いて平成十四年、小説『解夏』を発表。映画化、テレビドラマ化された。『解夏』は、長崎出身の主人公が視力を失うという病に罹り帰郷。絶望の淵から再生を期す物語である。

映画のロケ地の一つとなった聖福寺は、幕末のいろは丸事件の談判場所として坂本龍馬ら志士たちも訪れた史跡でもある。境内には吉井勇の歌を新村出の筆で刻んだ「じゃがたらお春」の碑もあるなど、文化的にも貴重な場所である。